

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-288	高等学校	情報科	情報 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	情 I 7 1 3	高等学校 情報 I		

1. 編修の基本方針														
<p>1. 問題解決の事例を通じて、情報の科学的理解ができるように配慮した。</p> <p>2. 実践的な事例を中心に展開した。また、新しい考え方や技術などを適宜導入していくとともに、技術革新によって内容が陳腐化しないよう配慮し、基本的なものを中心に展開した。記述は、論理展開に配慮した。</p> <p>3. コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、適切に情報を収集し、処理し、発信できる能力を養えるようにした。座学と実習をバランスよくできるように配慮した。</p> <p>4. 望ましい情報社会の構築に不可欠な、情報モラルの考えを育成できるように配慮した。高校生が、「情報」を自分の問題としてとらえられるよう、日常的で具体的な例を多数取り上げた。</p>														
2. 対照表														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">図書構成・内容</th> <th style="width: 50%;">特に意を用いた点や特色</th> <th style="width: 25%;">該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">                     情報化で変わる「学び」のスタイル                       巻頭資料①～⑤                 </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器を活用することで、どのような場面でどのような協力ができるかを考えられるようにした、また、情報機器を利用するルールやマナーを通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)</li> <li>・調べ、まとめ、自分の意見を加えて発表するという活動ができるようにし、個々人の意見を尊重する心を養えるようにした。(第2号)</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;">                     見返し i ～ ii                       p. 4～13                 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">                     第1章                      情報社会の問題解決                 </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号)</li> <li>・知的財産やプライバシーなど個人のもつ権利について、具体的事例を多く取り上げて、自分の問題として考えることができるように配慮した。(第3号)</li> <li>・情報機器が心身に与える影響について扱い、自身の健康を意識できるように配慮した。(第4号)</li> <li>・レポートを作成し相互評価することができるようにし、個々人のもつ意見を尊重する心を養えるように配慮した。(第2号)</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;">                     p. 14～21,                      p. 34～35                      p. 30～33                       p. 36～37                       p. 46～49                 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">                     第2章                      コミュニケーションと情報デザイン                 </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアや情報技術の発展において、各国でどのような重要な出来事や発明等があったかを俯瞰できるようにして、他国を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> <li>・コミュニケーションにおける配慮を通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;">                     p. 52～53                       p. 56～57                 </td> </tr> </tbody> </table>	図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	情報化で変わる「学び」のスタイル  巻頭資料①～⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器を活用することで、どのような場面でどのような協力ができるかを考えられるようにした、また、情報機器を利用するルールやマナーを通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)</li> <li>・調べ、まとめ、自分の意見を加えて発表するという活動ができるようにし、個々人の意見を尊重する心を養えるようにした。(第2号)</li> </ul>	見返し i ～ ii  p. 4～13	第1章 情報社会の問題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号)</li> <li>・知的財産やプライバシーなど個人のもつ権利について、具体的事例を多く取り上げて、自分の問題として考えることができるように配慮した。(第3号)</li> <li>・情報機器が心身に与える影響について扱い、自身の健康を意識できるように配慮した。(第4号)</li> <li>・レポートを作成し相互評価することができるようにし、個々人のもつ意見を尊重する心を養えるように配慮した。(第2号)</li> </ul>	p. 14～21, p. 34～35 p. 30～33  p. 36～37  p. 46～49	第2章 コミュニケーションと情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアや情報技術の発展において、各国でどのような重要な出来事や発明等があったかを俯瞰できるようにして、他国を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> <li>・コミュニケーションにおける配慮を通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)</li> </ul>	p. 52～53  p. 56～57		
図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所												
情報化で変わる「学び」のスタイル  巻頭資料①～⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器を活用することで、どのような場面でどのような協力ができるかを考えられるようにした、また、情報機器を利用するルールやマナーを通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)</li> <li>・調べ、まとめ、自分の意見を加えて発表するという活動ができるようにし、個々人の意見を尊重する心を養えるようにした。(第2号)</li> </ul>	見返し i ～ ii  p. 4～13												
第1章 情報社会の問題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号)</li> <li>・知的財産やプライバシーなど個人のもつ権利について、具体的事例を多く取り上げて、自分の問題として考えることができるように配慮した。(第3号)</li> <li>・情報機器が心身に与える影響について扱い、自身の健康を意識できるように配慮した。(第4号)</li> <li>・レポートを作成し相互評価することができるようにし、個々人のもつ意見を尊重する心を養えるように配慮した。(第2号)</li> </ul>	p. 14～21, p. 34～35 p. 30～33  p. 36～37  p. 46～49												
第2章 コミュニケーションと情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアや情報技術の発展において、各国でどのような重要な出来事や発明等があったかを俯瞰できるようにして、他国を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> <li>・コミュニケーションにおける配慮を通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)</li> </ul>	p. 52～53  p. 56～57												

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にでもわかりやすい表現方法を学習できるようにして、よりよい社会の形成に寄与できるようにした。(第3号)</li> <li>・データをグラフ化する方法を示すとともに、グラフの表現によって違った印象を与える例をとりあげ、データから真実を追求できる態度を養えるようにした。(第1号)</li> <li>・エコバッグをデザインする活動を通じ、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)</li> </ul>	<p>p. 60～67</p> <p>p. 68～69</p> <p>p. 74～77</p>
第3章 コンピュータとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号)</li> <li>・独立して生活するときの自律的な生活や収入について考えられるようにすることで、将来の職業などを意識できるよう配慮した。(第2号)</li> </ul>	<p>p. 100～105</p> <p>p. 120～121</p>
第4章 情報通信ネットワークとデータの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースが使われる例としてPOSシステムをとりあげ、さまざまな職業が相互に関わっていることも理解できるようにした。(第2号)</li> <li>・具体的なデータをグラフ化する例をさまざまな分野から多数とりあげ、幅広い知識を得ると同時に、そのデータの内容を読み取ることから真実を追求できる態度を養えるようにした。(第1号)。</li> <li>・日本の観光地を海外からの観光客に紹介することを題材にさまざまな情報を集める活動を通じて、日本の伝統と文化について興味をもてるように配慮した。(第5号)</li> <li>・部活動の実態を分析する活動を通じて、自分の生活や学校活動を自主的、自律的に考えられる態度を養えるように配慮した。(第2号)</li> <li>・地域に関するさまざまなデータを分析する活動を通じて、よりよい社会の形成に寄与できる態度を養えるように配慮した。(第3号)</li> </ul>	<p>p. 143</p> <p>p. 152～159</p> <p>p. 164～171</p> <p>p. 156～159</p> <p>p. 164～167</p> <p>p. 168～171</p>
巻末資料⑤ 情報社会のおもな法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科「情報」の内容に関する法律の条文を多数掲載し、情報社会を生きていくうえで必要なルールの根拠を理解できるように配慮した。(第3号)</li> </ul>	<p>p. 186～187</p>
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際語としての英語を習得する重要性を踏まえ、アルファベットの略号であらわされる用語については、もとのスペルを付記した。また、漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身につくよう配慮した。</li> <li>・体験を通じて理解することを重視し、随所に「ためしてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」欄を設けて、本文の理解を深められるように配慮した。</li> <li>・理解を深められるよう、各章末に「まとめ」「章末問題」を設けた。</li> </ul>		

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-288	高等学校	情報科	情報 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	情 I 7 1 3	高等学校 情報 I		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 日常生活との関連性を認識させ、「情報」への関心を高められるよう、親しみやすい題材を取り上げた。
  - ・具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。
  - ・「例題」を設け、具体的な活動のイメージをつかみやすいようにした。
2. 「情報」についての基本的な概念や原理・法則を着実に習得できるようにした。
  - ・本文記述は丁寧におこない、できるだけ図解をまじえて理解できるようにした。
  - ・具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。
3. 実習活動を通して、「情報」の性質を体験的に理解できるようにした。
  - ・各項目ごとに、学習前の目標となる「GOAL」と、学習前に取り組みたい「スイッチ ON」を設け、あたらしい項目の学習にスムーズにはいれるように配慮した。
  - ・「やってみよう」「ためしてみよう」「考えてみよう」を配置し、体験を通じて本文の学習内容が定着できるようにした。
  - ・各章末では、パーソナルコンピュータの基本操作、科学的理解のための作業、発表活動など、多様な実習を通じて、さまざまな体験ができるように配慮した。
4. 学習段階や興味・関心の異なる生徒に対応するため、幅広い内容を取りあげた。
  - ・機器操作の習熟度の差が影響しないよう、パーソナルコンピュータの基本操作も学習できるようにした。
5. 平易にわかりやすく記述するとともに、漢字には積極的にルビを添え、あらゆる学習段階の生徒が無理なく読み進められるよう配慮した。
6. 欄外に「モラル eye」を設け、学習を通じてつねに情報モラルについて意識できるように配慮した。
7. ユニバーサルデザインフォントを採用し、読みやすさの向上にも努めた。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
情報化で変わる「学び」のスタイル パーソナルコンピュータのしくみ	(1)ア(イ) (3)ア(ア)	前見返し 前見返し	1
巻頭資料 ①問題解決の方法を学ぼう ②図解の方法を学ぼう ③レポートを書こう ④ワードプロセッサを使おう ⑤プレゼンテーションをしよう	(1)ア(ア) (2)イ(ア) (1)ア(ア) (1)ア(ア) (2)ア(ウ)	p. 4- 5 p. 6- 7 p. 8- 9 p. 10- 11 p. 12- 13	1
第1章 情報社会の問題解決 第1節 情報の活用 第2節 個人の責任と情報モラル 第3節 情報技術の役割と影響	(1)ア(ア), (1)イ(ア) (1)ア(イ), (1)イ(イ) (1)ア(ウ), (1)イ(ウ)	p. 14- 21 p. 22- 33 p. 34- 41	9

章末実習				
1 迷い猫をさがそう	(1)イ(ア)	p. 42- 45	3	
2 SNS での行き違いについて考えよう	(1)イ(イ)	p. 46- 47		
3 引用を使った文章を書こう	(1)ア(イ)	p. 48- 49		
第2章 コミュニケーションと情報デザイン			10	
第1節 コミュニケーション手段の特徴	(2)ア(ア), (2)イ(ア)	p. 52- 59		
第2節 情報デザイン	(2)ア(イ), (2)イ(イ)	p. 60- 67		
第3節 コミュニケーションと効果的なデザイン	(2)ア(ウ), (2)イ(ウ)	p. 68- 77		
章末実習				
1 学校のことを知ってもらおう	(2)イ(イ), (2)イ(ウ)	p. 78- 79	4	
2 しおりを来校者にプレゼントしよう	(2)ア(ウ), (2)イ(ウ)	p. 80- 83		
第3章 コンピュータとプログラミング			12	
第1節 コンピュータのしくみと働き	(3)ア(ア), (3)イ(ア)	p. 86- 99		
第2節 モデル化とシミュレーション	(3)ア(ウ), (3)イ(ウ)	p.100-105		
第3節 プログラムと問題解決	(3)ア(イ), (3)イ(イ)	p.106-115		
章末実習				
1 トリックアートを見破ろう	(3)イ(ア)	p.116-117		6
2 アニメーションをつくろう	(3)イ(ア)	p.118-119		
3 部屋に家具を配置しよう	(3)ア(ウ)	p.120-121		
4 窓口の並び時間を考えよう	(3)イ(ウ)	p.122-123		
5 プログラムで画像を動かそう	(3)ア(ウ)	p.124-125		
第4章 情報通信ネットワークとデータの活用			10	
第1節 情報通信ネットワークのしくみ	(4)ア(ア), (4)イ(ア)	p.128-141		
第2節 情報システムとデータ管理	(4)ア(イ), (4)イ(イ)	p.142-151		
第3節 データの分析と活用	(4)ア(ウ), (4)イ(ウ)	p.152-159		
章末実習				
1 コンピュータ教室のネットワーク設定を調べよう	(4)ア(ア), (4)イ(ア)	p.160-161		6
2 家庭で情報機器を増設してみよう	(4)ア(ア), (4)イ(ア)	p.162-163		
3 部活動について分析しよう	(4)ア(ウ), (4)イ(ウ)	p.164-167		
4 データを使って地域の実情を知ろう	(4)ア(ウ), (4)イ(ウ)	p.168-171		
巻末資料			1	
①表計算ソフトウェアを使おう	(4)ア(ウ)	p.174-177		
②表計算ソフトウェアの関数	(4)ア(ウ)	p.178-179		
③表計算ソフトウェアでのプログラミング	(3)ア(イ)	p.180-181		
④Python (パイソン) を使ってみよう	(3)ア(イ), (3)イ(イ)	p.182-185		
⑤情報社会のおもな法律	(1)ア(イ)	p.186-187		
HTML/CSS 解説	(2)ア(ウ)	後見返し	1	
色/解像度	(2)ア(ウ)	後見返し		
ローマ字入力, キーボード/マウスの操作	(1)ア(ア)	後見返し		
		計	65	

※年間授業時数を 65 時間として配当している。